週間展望・回顧（ポンド、加ドル）

June 7, 2019

英保守党、党首戦スタート

◆英保守党、来週から党首戦が本格的にスタート
◆英議会、「合意なき離脱」を阻止できるか
◆加首相、米国の対メキシコ関税は USMCA 批准の妨げにならないとの見方

予想レンジ
ポンド円　135.00-141.00 円
加ドル円　79.00-82.00 円

6 月 10 日週の展望

メイ英首相が 7 日に与党・保守党の党首を辞任し、来週から保守党の党首戦が本格的にスタートする。一部報道では、党首選考は保守党議員による 4 回の投票を行い、20 日までに最終候補 2 人に絞り込む計画が提案されたもよう。メイ首相の後任候補のなかには期限の 10 月 31 日までに欧州連合（EU）を離脱すべきと唱える者が複数含まれており、そのなかでも強硬離脱派のジョンソン前外相が最有力とされている。「合意なき離脱」の懸念で、ポンドは上値の重い動きが続くか。

強硬離脱派が次期首相になれば「合意なき離脱」の可能性が高い。英議会は今まで離脱の条件などで過半数の賛成を得た案はなかったものの、「合意なき離脱」には過半数の議員が反対した。メイ首相が EU と合意した離脱案が議会で 3 回も否決されたことも踏まえて、次期首相が英国により有利な条件を EU に求めることはほぼ確実だが、EU が応じる可能性は低い。次期首相も英議会のこう着状態を打開できず、「合意なき離脱」を進める可能性があるが、英議会は果たして阻止できるのか。議会は政府に路線変更を強制する手段はほとんどなく、次期首相が「合意なき離脱」の方針を固めた場合、それを阻止するために議会は不信任投票を行い、首相交代を目指す可能性がある。不信任投票が可決され、総選挙・国民投票再実施となれば、離脱期限の再延期を EU に求めざるを得ない。離脱問題で 2 人の首相が退任に追い込まれたが、メイ首相の後任も同じジレンマに直面する可能性が高い。

英 5 月 PMI は、建設業が 48.6 と昨年 3 月以来の低水準となった一方、サービス部門は予想比上振れの 51.0 となった。サービス業 PMI は 3 月に景気判断の分岐点 50 を割り込んだが、その後は回復基調が続いている。イングランド銀行（BOE）のカーニー総裁は円滑な EU 離脱を前提としながら、インフレを目標に近付けるために一段の利上げを実施する必要がある可能性を指摘した。

加ドルは方向感に欠ける動きが続くか。世界経済の先行き不透明感や、カナダ中銀（BOC）の金融政策運営の不確実性の高まりで、加ドルの方向感は出にくい。米中貿易摩擦の激化懸念で対円では上値が重くなっているが、対ドルでは 4 月中旬から 1.35 加ドル台では買い戻しが入る一方で、1.33 加ドル台では売りに押され、1.34 加ドル台を中心とした小動きが継続。市場では「BOC が今年後半に利下げ」との見方が強いが、不確実要因も多い。トランプ米大統領が対メキシコ関税引き上げを表明し、米・メキシコの関係悪化が懸念されているが、トルドー加首相は米国の対メキシコ関税が米国・メキシコ・カナダ協定（USMCA）の批准を妨げることはないとの見解を示しした。

6 月 3 日週の回顧

米利下げ観測の高まりを背景に全般的にドルの上値が重くなり、ポンドドルは下げ渋るも、EU 離脱をめぐる先行き不透明感で戻りは鈍く、上値は 1.27 ドル半ばにとどまった。ドル／加ドルは 1.33 加ドル台まで加ドル買いが優勢となるも、原油安が加ドルの重し。米中貿易戦争への懸念を背景としたリスクオフの円買いが一段落し、ポンド円は 137 円後半、加ドル円は 81 円前半まで買い戻しが入った。（了）

本レポートはお客様への情報提供のみを目的として作成したもので、売買の勧誘を目的としたものではありません。実際に投資をなさる場合の最終ご判断は、お客様ご自身でご判断なさるようお願い致します。本レポートを原因とするお客様の直接あるいは間接的損失および損害については一切補償には応じません。 Copyright DZH Financial Research, Inc.